

伝説のタヌキ 題材にお祭り

松山・久谷 児童ら創作歌舞伎



伊予八百八狸をモチーフにした創作歌舞伎を熱演する坂本小児童

伊予八百八狸の総大将・隠神刑部狸（いぬがみぎよつぶたぬき）を祭る「久谷たぬき祭り」実行委員会など主催）が二十五日、松山市久谷町の市民劇場・大黒座などであった。タヌキをテーマにした地元アマチュアバンドの演奏や創作歌舞伎の上演などにぎわった。隠神刑部狸は、日本三大狸話の一つと言われる

「松山騒動八百八狸物語」に登場。江戸時代、松山藩の家老の横領を幻術で仲間と阻止しようとする。阻止には失敗するが、隠神刑部狸の働きで横領が発覚、家老は成敗される。久谷町では毎年、隠神刑部狸が閉じ込められたという山口霊神で八百八狸を法要。今年はお朽化で三月初めに改修した同

霊神の祠（ほこら）の完成祝いを兼ね、法要を交えた祭りを開いた。創作歌舞伎では、まちづくり団体「久谷夢工房」（光田正会長）のメンバーで、坂本小学校の児童約二十人が出演。伊予八百八狸をモチーフに、隠神刑部狸をはじめ五匹の古狸の会合の様子を好演し、観客約二百五十人を楽しませた。